



Chapter 8 - The Knight's Return ~the world's secret~

I WOKE UP  
ONCE LAST  
NIGHT.

THAT WAS  
PROBABLY  
WHEN IT  
HAPPENED.





**RULO'S  
BACK?!**

**HE'S  
BACK IN  
CLOUD  
TOWN?!**





HE GOT  
RAGE LATE  
LAST NIGHT.

HE'S  
RESTING  
IN HIS  
ROOM.

IT WAS  
MORNING BY  
THE TIME HE  
WENT TO  
SLEEP.



MOTHER!

YEP.



THAT'S  
WHY I'M  
SLEEPY,  
TOO.



FA-  
THER.

YOU  
TALKED  
WITH  
HIM?

YOU  
GET.







I WANTED  
TO TALK TO  
HIM FOR SO  
LONG.

I HAD  
SO MUCH  
I WANTED  
TO SAY!







HIS TRIP  
TOOK A  
LOT OUT  
OF HIM.

LET HIM  
REST FOR  
NOW.



IS HE  
HURT?



BUT HE  
SEEMS  
EXHAU-  
STED..

YES.



NO,  
HE'S NOT  
INJURED,

HE'S  
FINE.



"TONIGHT  
WE'LL HAVE  
A PARTY  
FOR HIM"

"YOU'LL  
SEE HIM AT  
DINNER"



HE'S REALLY BACK!

HE'S BACK



**RULO  
IS BACK!**



THE SAMURAI MAKE  
SACRIFICES TO  
ENSURE WE CAN ALL  
LIVE PEACEFULLY.



WITHOUT  
CONSTANT  
CARE TO PATCH  
THE HOLES, IT  
WOULD SINK.

THIS WORLD  
IS LIKE A SHIP  
THAT CONSTANTLY  
SPRINGS LEAKS.

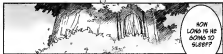
WITHOUT THE  
SAMURAI TO DRIVE  
THEM OFF, OUR  
WORLD WOULD BE  
DESTROYED.

DEMONS  
COME OUT  
FROM ALL  
PLACES  
CEASE-  
LESSLY.

AND THEN  
FADE AWAY.

THEY  
PROTECT  
THE WORLD,

EVERYONE  
RESPECTS  
WHAT THE  
SAMURAI  
DO.





WHAT ARE YOU DOING?  
YOU KEEP PACING  
HERE.

MA-  
MAHAYA!



PRIN-  
CESS!

VIKES!

VIKES!



NO, I  
WASN'T...

HE'S STILL  
SLEEPING.

OH,  
RILOP



CHANGED  
A LOT.



BUT I  
HEARD SOME  
RUMORS...

RILO  
HAS...



NO.

MAHAYA,  
DID YOU  
TALK TO  
HIM LAST  
NIGHT?



It reminds  
me of the  
taste of  
the city!

I NEED TO KILL  
TIME UNTIL DINNER..



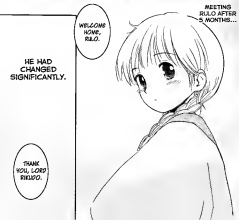
MY SISTER ALWAYS  
MAKES FUN OF ME FOR  
WEARING SHORTS AND  
LOOKING CHILDISH. SO  
I'LL TRY A LONG  
SKIRT!!!





CONGRATULATIONS  
ON A SUCCESSFUL  
JOURNEY.

WE'RE  
SO GLAD  
YOU MADE  
IT HOME  
SAFELY.



WELCOME  
HOME,  
RULO.

MEETING  
RULO AFTER  
5 MONTHS...

HE HAD  
CHANGED  
SIGNIFICANTLY.

THANK  
YOU, LORD  
RIKUDO.







THAT'S  
VERY  
IMPRESS-  
IVE.



YOU EVEN  
DEFEATED A  
LARGE DEMON  
SINGLE-  
HANDEDLY?



IT  
SOUNDS  
LIKE YOU  
WERE QUITE  
BUSY ON  
YOUR TRIP.



AND HIS  
SKIN IS  
TAN..



HIS  
HAIR HAS  
GROWN.



MAYBE  
I'M NOT  
USED TO HIS  
DIFFERENT  
VOICE...



GENGEI DID  
MOST OF IT. I  
JUST CLEANED  
UP AT THE END  
A LITTLE...



JUST WHAT...

GENE-  
RAL TENG  
WAS ALSO  
IMPRESSED  
WITH YOU.

SHEYU  
DID?

THAT  
JOKES  
SHEYU  
SERIOUSLY



PRaised  
YOU,  
DIDN'T  
HE?



IS SO  
DIFFERENT..



PRINCESS  
MIMIA



HAPPY 11TH  
BIRTHDAY.

ALTHOUGH  
IT'S VERY  
BELATED...



NO..

I'M SORRY  
I COULDN'T  
ATTEND YOUR  
PARTY.

I HEARD IT  
WAS VERY  
NICE.

THANK  
YOU!

YES

WHAT'S  
WRONG WITH  
ME?

I WANTED TO  
TALK TO HIM  
SO BADLY I  
COULDN'T  
STAND IT...

I HAVE  
SO MUCH I  
WANTED TO  
SAY...

WHAT'S  
WRONG WITH  
ME?

CONFESSION  
THE RULO  
WAS HERE  
WITH ME...

NOT BEING  
SCARED  
OF HORROR

MEETING  
A DEMON  
AND FIGHT-  
ING IT WITH  
ARTIK...

HEARING  
THE CEREMONIAL  
DRUMS SINGING  
THE BIRTHDAY  
SONG...



I'M SO SAD.

EVERYTHIN  
THAT SEEMED  
SO IMPORTANT,  
SEEMS LIKE TRIVIAL,  
CHILDISH STUFF  
UNRELATED TO  
RULO...

BUT  
NOW...









THANK  
YOU..

WHAT  
IS IT?

IT'S A FLOWER  
FROM OUTSIDE  
CLOUD TOWN.

IT'S  
CALLED  
"STARSEA  
GRASS"

IT HAS A  
SMALL BLUE  
FLOWER.



AND  
SAW SOME  
BLOOMING.

I PASSED  
BY AN  
OCEAN ON MY  
JOURNEY,

THE OCEAN'S  
SCENT IS STILL  
LINGERING ON  
THE SEEDS.



THE  
OCEAN..

I'VE ONLY  
READ ABOUT  
IT...

44



CONGRATULATIONS  
ON COMPLETING  
YOUR TRAINING.

GREAT

GREAT

I HEAR  
YOU'LL  
HAVE YOUR  
OFFICIAL  
INSPECTION  
CEREMONY  
THIS YEAR.

YES!

SHALL  
SAMANA PRE-  
SENT YOU WITH  
THE "BRANCH OF  
PROTECTION"?

YES.

I WOULD  
APPRECIATE IT  
VERY MUCH.

IT WOULD BE  
AN HONOR.

ルキ

ルキ

ルキ





LOOKING  
AT RULO'S  
FACE..

I FELT THE  
SECRETS OF  
THE WORLD.

# Sakugara Scanlations



Translator:

*TASHI*

Proofreader:

*SERGHAR*

Cleaners:

*SAYINO AND KNIGHT*

Typesetter:

*SAYINO*

**PRINCESS MIMIA**



補 遺

設定資料抄  
幕 間

# 「靴下」

おしりれのポイントは何と言っても靴下です。

靴ではしっかりした靴を  
履くことは  
ほとんどありませんが、

アンブレットと言わせたり  
リボンや飾りをつけてみたり  
おその結びや色を変えたりして  
遊ぶのです。

うまくいくと  
うれしくなります。

みなぎりと  
愛さぬいっこをするのが  
また面白いです。

それと、わざとくちもちの間に  
このうんと細い指が通っています。  
上唇に隠れてもさうくらいがいいのです  
(うすの指とまは、あざれまのうんとまのまの指)。



【雪のお囃子】

あったかーい雪にまっほり包まれると  
身体がほわっと暖く感じられます。

雪の人はみんな  
このお囃子に曲がありません。



お気に入りの色い香りのする雪花や  
雪融けある植物とともに  
ゆっくりとした感じがします。

まさにゆめ気分です。

# 「ルロウさん」

ルロウさんは「ちがら」を持つたいわたくしを  
幼いころからずっと、  
いつも助けしてくれている「いぬ」です。

「ちがら」を持っていて、少しですが恋慕もできます。



わたくしが小さかったころは、  
よく笛中に閉まって運んでもらったものです。

現在はすっかり古武士のような服装で  
頼もしい限りです。

「奇」

船で一番快のれる乗り物は「奇」とす。  
 空中を自由自在に運ぶです。

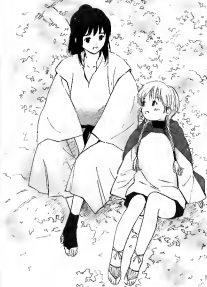
四方の船で  
 雲の間に水のある船まで  
 舟の底から舟の頂まで  
 舟があるほど大なりけりす。



自分の舟を持つようになったら  
 舟はもう大です。  
 舟こがれです。

七人の船は舟も  
 舟の船の上の舟も  
 舟手に持ち出してはらうとす。  
 舟られでもどんどど舟です。  
 舟るのもどとせあすです。

舟の舟に舟になったり  
 うとうご自分の舟をもえりえりす。









## あとがき

この本を手に取っていただいたありがとうございます。  
御礼です。

「さくら」巻と巻です。

騎士の帰還、さくらが帰ってきました。

いよいよさくらいぬのさくらさんではないほうのこの登場です。

サムライが敵のもとへ帰ってきた。

さくら、うれしそうです。

さくらもずっと心持ちにしていたようですが、作者の僕も持ちこたえていました。

初版構成からもうずっと登場概念を練っていました。

この作品のメインに「ロ」のはずなのに、ずっとずっと別巻が読れなくて……

スカーフもいはい編んで、早く作中に出したかったのに。

第一巻中に登場できなかったのもうろたえたのですが、星行木作畫の加筆でさくら……が太くならずすぎず絶えなくなりました。

巻と巻、ついにさくらの登場です。

さくらにちやうど「世界の輪」そのものに見えなげです。

深い武人の少年に「ロ」を贈りたいです。

マンガ家として戦いよりを耐けて読みたいと思います。

巻と巻になて「サムライ」や「星」、あるいは「死」や「雨」、「世界の輪」の外の風景などが「さくら」巻の世界の中に姿を現わしてきました。

お手紙やメールなどの感想、励まし、本当にありがとうございます。

第一巻を出した頃、本当はとてとても不安でした。

巻くで自分で読み返す……と不安な気がくらくらしていました。

だからこそ、書かれた皆さまの言葉にどれほど励まされたか――

巻く巻も読んでいただけて大変うれしいです――

いただいたお手紙やメールを拝見していると、じつは皆さまが人生を持つた方々に自分の書いたものが読まれていることを改めて感じます。

自分の書いたもののために、お一人お一人取り替えることの出来なない、重たさのある人生を持つた人がいるのだという……ことを感じます。

これからもう少し始めて仕事に取り組みます。

少しでも良い作品をお届けしたいと思っています。

書店の皆さま。

いつも本音に正直話に生きています。

作品を読者に届けてくださったありがとうございます。

特に第1巻のとき、イベントを開いてくださったたり、大きく取り上げてくださった各書店様。

本当にありがとうございます。

生まれたことで、まだ家族や友だちとつながったこの作品に手を貸して立ち上がるのを助けてくださったこと、感謝いたします。

おかげさまで無事第2巻に繋げることが出来ました。

いい作品になりました。

これからもどうぞよろしくお願いたします。

内容、制作スタイルなどを全ての巻での僕の「作家性」を最大限に暴露してくださる「アフタヌーン」編集部には深く感謝します。  
身の引き締まる思いです。

書き下されるに値する仕事をします。

同僚編集者の村上秀成さん、いつもありがとうございます。

減価なお仕事ぶりにいつも助けられています。

ようやく少しずつ「めすー」なやではという「村上―田中組」の個性が出てきているように感じます。

楽しい仕事が続きますが、これからもうぞろぞろしくお願いた

します。

僕丁の石川順美さん

第1巻の美しい僕丁は多くの人から評者に好評をいただきました。

すてきうれしかったです。

この第2巻も絶り強い仕事をしてくださるありがとうございます。

僕にとりて作品を積み重ねることは、あらかじめ出来上がった地図を手にして計画と通りに進んでいくのは夢う感じます。  
もう少し新鮮な冒険の感じます。

人物も世界も物語も、作者の思いもよらなかつた姿を現しています。

「めすー組」はもうやうやく第2巻です。

これから、どんな世界が見えてくるのか、どこまでたどり着けるのか。

楽しみます。

ではまた第3巻をお会いしましょう。

どうぞ、お元気で。

人卷予告



ミミア姫  
第3巻

をうご期待!

